

## 新潟市におけるバリアレス縁石の導入に向けた取り組み

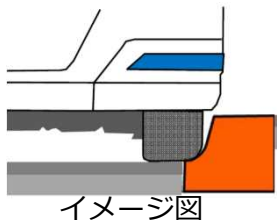
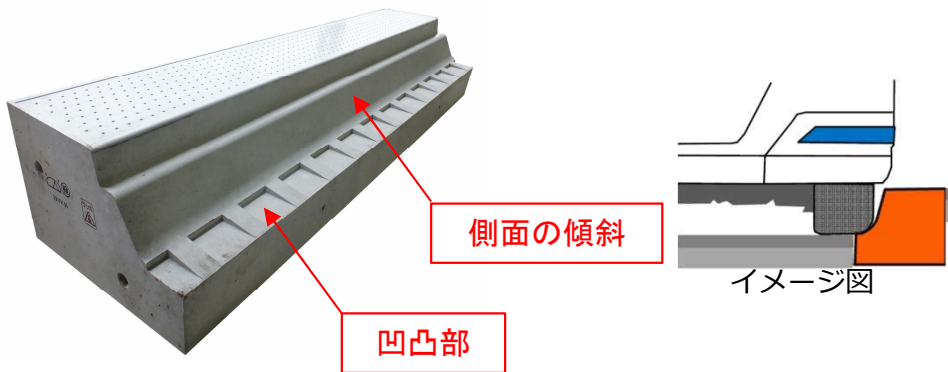
新潟市 都市政策部 都市交通政策課

## ■ 目的

- ・超高齢社会が進展するなかで、誰もが安心安全かつ快適にバスが利用できるよう、乗降環境の改善に向け、ノンステップバス車両の導入と合わせ、バリアレス縁石の導入によるバス停のバリアフリー化に取り組む。

## ■ バリアレス縁石とは

- ・側面を特殊な形状にすることで、タイヤが縁石に接触しても衝撃がほとんどなく、バス停にバスを近づけること（正着）ができる縁石。
- ・縁石の一部に凹凸を設け、車両が縁石に接近すると微振動により運転手が感知できる構造。



## ■ 実証実験の経緯

- ・H28年度（小型ノンステップバス対応の国産バリアレス縁石の設置が**全国初**）  
実験場所：構内道路（秋葉区役所内）
- ・H29年度（小型ノンステップバス対応：国産）  
実験場所：市道 **公道での供用開始**
- ・R1～2年度（バス停バリアフリーの推進に向けた社会実験）  
実験場所：新潟駅万代口バスターミナル  
多くのバスが出発するバス停で、**大型バス及び連節バスの実運行（乗客が乗っていない状態）**における正着状況の把握および運転士の正着練習  
実験内容：①運転士の練習による**正着性（水平離隔）の向上**  
②マウントアップ（段差解消スロープ）の有効性  
③道路空間の再構築（新潟国道事務所と情報共有）  
実験結果：①正着性 150mm以内（約1割）⇒ **150mm以内（約4割）**  
②マウントアップにより乗降口の**段差を約5cm**まで解消  
③正着により生まれた空間（約300mm）の利活用を提案

## ■ 現在の取り組み（令和3年度）

## ■ バリアレス縁石の本格導入に向けた実証実験

- 実験場所：白山駅前広場  
多くのバスが発着するバス停で、**乗客を乗せた大型バスの実運行における正着状況の把握および正着練習。**
- 実験目標：①正着性 150mm以内（**6割以上**）

◇令和4年度に本格導入を予定している新潟駅直下バスターミナルの開業時には正着性 150mm以内（**8割以上**）を目指す。

## ■ 今後の整備方針

- ・交通結節点（新潟駅直下交通ターミナルや駅前広場）への導入
- ・多くのバス利用者が乗降する**基幹軸**への導入
- ・マウントアップの実用化と導入に向けた検証（実証実験）
- ・バス停における**道路構造物として標準化**されるよう各種図集への掲載

実験協力：公益社団法人日本交通計画協会  
製品製造：株式会社アドヴァンス（新潟市）

